

請 願 文 書 表 (令和7年2月28日定例会提出)

請願第 15 号

「若草中学校区学校規模適正化」についての請願書（行財政改革及び公共施設等検討特別委員会付託）

令和7年2月17日受理

請願者 ●●●●●●●●●●●●●●●●

赤 枝 美紀子

紹介議員 宮 池 明

要旨

1. 市は、「若草中学校区学校規模適正化」について、保護者や児童、住民が不信感を感ずるような説明ではなく、全貌が理解できるように全てを公開し、誰もがクリアな討論ができる場を設けてください。
2. 校長先生を保護者、児童に統廃合を納得させる役割にさせないでください。
3. 子供が意見を言いづらくなっている状況を変えてください。
4. 若草中学校区の通学路と生活道路、一般道の安全調査を実施し、統廃合による校区の広がりでのどのような危険が想定されるのか、放課後など児童の日常に与える影響を明らかにし、児童の安全が確保できるのかどうか納得のいく説明をしてください。

理由

1 について

この2年半余りで、当初の「児童数が減り切磋琢磨できないから統廃合という方向で」という説明が「令和8年統廃合は決定事項で子供たちは佐保の新校舎を楽しみにしているから1日も早く」に変わり、改築工事入札が不成立後は「補助金で佐保を建て替えるためにも統廃合」、さらに、「補助金を使うには期限があるので先延ばしにできない」という説明に変わってきました。

子供は、人数が少ないことは悪いことなのかと悲しみ、鼓阪小学校がなくなるのが不安で新校舎を楽しみにできる状態ではなかったです。保護者も、交通の安全など不安要素が多くあるにもかかわらず、なぜ統廃合をこんなにも急いでいるのか、佐保小学校の建て替えと鼓阪小の統廃合をなぜ同時に進めるのか、説明がなかったので全く分かりませんでした。

最近では、「鼓阪小の跡地は高く売却できるから統廃合」とか、「鼓阪だけ統廃合しないのは不公平」などのオピニオンが表に出始め、子供の教育という観点から外れていっているようにも感じています。

市と教育委員会は、統廃合について合意形成ができていないことを認め、もう一度、一か

ら説明し直し、市民が全貌を理解できるようにした上で、保護者、児童、地域住民からの質問に答え、統廃合の是非についてオープンに討論できる場を設ける必要があると考えます。

2について

校長先生は、保護者、児童に寄り添い、その声が聞き入れられるよう行政に働きかける役割にしてください。今は全く逆になっています。

2年前は、統廃合についてPTA運営委員会での議論を控えさせられ、現在は議題に出せるようになったものの、統廃合に疑問を呈するような発言は運営委員会便りに掲載してもらえませんでした。理由は、「一部の意見が全体の意見のように捉えられてはいけない」からだそうです。鼓阪小学校は保護者アンケートでも分かるように、過半数が統廃合に反対しています。PTA運営委員会役員では保護者の声を共有し話し合うのですから、運営委員会便りでも包み隠さず伝える必要があると思います。

校長先生には、御自身が統廃合に賛成であったとしても、児童、保護者に統廃合を納得させることのみに尽力するのではなく、児童、保護者の反対の意見を包み隠さず行政に伝え、強引に進めないようにお願いし、当事者が常に風通しのよい話し合いができるようにしていただきたいです。

2年半ほど前、統廃合の話が出たときに、学校での相談窓口は校長先生ということで、応接室でお話しました。そのとき私は、自身と娘の気持ちを書いたお手紙を教職員人数分コピーして持参しました。人数分は受け取っていただけず、1枚だけお受け取りになり、教職員が見える場所に置いておくと言ってくださいました。もし読んでくださったのなら、少なくとも1人の子供の気持ちはお分かりになったはずです。

3について

校長先生は過去に子供たちに、「150年続いた鼓阪小学校で今後学べなくなるのは寂しいと思う。その気持ちを持ちつつも前を向いていってほしい」といった内容を朝会で述べましたが、その後、これをどう捉えてよいのかというフォローはありませんでした。

一方で、「鼓阪小学校は素晴らしい学校だと思っている」ということは子供たちに伝えてくださっています。でも子供側からしたら、「素晴らしい学校なら、なんでなくすの」、「なくならないようにお願いしてもらえないの」とずっともやもやした気持ちでした。

そして学校では、子供たちに統廃合によって鼓阪小学校は廃校になるということは伏せて、新校舎建築のためのワークショップが鼓阪小学校の校舎のワークショップとして開催されました。後に教育委員会から、鼓阪小学校のことを思っ出て出したアイデアが「佐保新校舎の設計には鼓阪小学校の子供たちのアイデアが取り入れられました」と紹介され、私の娘は「それは違う」とショックを受けていました。

子供たちは、統廃合について意見を交わす機会がなかったため、次第に諦めてしまいまし

た。市長が、「子供たちは新校舎を楽しみにしている」と言っていることをPTAアンケートで知って、「鼓阪本当になくなるかも、どうしよう、校長先生にお願いの手紙を書かないと」とお友達と話した子たちでしたが、結局、「駄目だよ、そんなことしたら校長先生に怒られるから」となってしまったようです。

本来なら、子供たちには統廃合について、建前だけではなく大人の事情も含めて説明し、子供たちが話し合いの中で、「学校なくなるのは嫌だ」、「新しい学校ができるのはいいことだ」、「いいこととは何か、困ることは何か」など意見を交わすことで、なぜ自分がそう思うのか、相手はなぜそう考えるのか、自分たちには何がベストかを考えることができたはずです。

請願という方法があることを知りはりきって書いたものの、自分の名前が表に出ると知って、先生を困らせたくない、お友達の中で浮いてしまったら嫌だという理由で諦めた子が、それでも自分の気持ちは伝えてほしいと言って名前を入れずに書いてきた文章が以下のとおりです。

鼓阪小学校と佐保小学校の統合について意見します。

2022年頃、市長や教育委員会の人たちが子供や地域の人に意見を聞いたり話し合いをせず、佐保との統合を決められてしまいました。翌年は鼓阪小学校の創立150周年のお祝いだったのでとてもショックでした。地域の人はもちろん反対したけれど、市長や教育委員会は何もしようとはしてくれませんでした。子供たちは、何しろいきなりのことで、とても驚いたし、教育委員会は子供の話を一向に聞いてくれようとはしませんでした。学校内でもそう言われているのか、なかなかその話をしにくい状況となっています。この計画が出る前に戻して、最初に私たち一人一人の声を聞いてほしいです。

なぜなら私は鼓阪小学校が大好きだからです。鼓阪小学校は150年という歴史があり、東大寺や転害門など歴史ある建物に囲まれています。そのため鼓阪小学校の体育館の屋根は瓦屋根です。そんな歴史ある学校を潰してしまうことは許されないことだと思うし、子供がいないとその地域がガラガラになってしまっただけで歴史を受け継げなくなってしまう。鼓阪小学校には町探検や菜種油を東大寺に奉納するなど、いろんな行事があります。

そして何より私が心配しているのは家から学校までの登校時間です。せっかく近い学校があったのにわざわざ1時間も歩かせ、しかも危険な道を歩かせてまで統廃合をしなければならぬのだろうかと思ってしまいます。人数より子供の命を優先に考えるべきだと思います。

たとえ複式学級になったとしてもしっかりと勉強はできるし、友との絆も深め合えていいと思うので、人数が少ないのは学校をなくす理由にはならないと思います。そして教育委員会は切磋琢磨できないとおっしゃっていますが、それは違うのではないかと思います。何なら人数が少ないほうが切磋琢磨できるのではと思います。人数が少ないことで困っているのであればすぐに統廃合という決断にいくのではなく、じゃあそのためにはどうしたら人数を増やすことができるのだろうかということを考えてほしいです。

そして本当のことを話してほしいです。大人はもちろん、私たち子供にも話し合う機会が必要です。子供たちはこの件は学校でも話すような状況でないので、みんな心に意見を閉ざしたままです。今、こども家庭庁もつくられ子供の意見を重視しようと言われているのに、子供たちには何も言わず自分たちで勝手に決めてしまうのは駄目だと思います。せめて今の状況を話してほしいです。とにかく話し合う機会が欲しいです。そして私は統廃合をしなくてもいい方法を一緒に考えてほしいです。

2025年2月16日 鼓阪小学校児童の一人より

4について

佐保小学校の令和9年開校までに通学の安全確保の工夫が提案されていますが、どれも付け焼き刃に感じられ、保護者の不安が拭えていません。もっと保護者、住民からヒアリングを重ねてほしい。自治連合会の見解は鼓阪地区全体のものではなく、統廃合に不都合な声は届けられていないということが、令和6年11月に出された賛成、反対の相反する2つの請願からもうかがえると思います。

鼓阪地区は細い道にもかかわらず車が両側通行のところが多いので、低学年は特に見守る必要があります。校区内の鼓阪小に通うのも安全とは言い切れないのに、さらに学校が遠くなってしまうのは保護者や近隣の方々の目が届きません。児童の生活圏の安全が確保できていない状態で統廃合は進められています。校区が広がれば保護者とボランティアだけでは難しいのは明らかなのに、行政は前教育長の「子供たちは人の垣根で守る」という言葉を繰り返すだけにとどまっているように感じます。

上記お願いいたします。